

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

【低学年】

- ・平仮名を書く際に、ポイントを一緒に確認したり、間違い探しをしたりして、字形を意識できるようにしたことで、正しい文字を習得することができた。
- ・漢字小テストを定期的実施し、タブレットのまなびポケットを活用してドリルパークで書き表し方の習熟を図ったことで、漢字を習得することができ、漢字検定にも9割以上の児童が合格した。
- ・あのねノートを使った日記の指導を継続して行うことで、したことや思ったことなどを表現することに慣れてきた。
- ・親しみのある題材を設定し発問の工夫をしたことで、学習に対する意欲を高めることができた。
- ・単元の学習計画や一単位時間のめあて、学習の流れを児童にも示すことで、見通しをもって主体的に学習する姿が見られた。
- ・単元の始めに一人一人がもった感想を基に学習問題を立てることで、主体的に課題に取り組むことができた。
- ・自分の考えを友達に伝えられるようになるために、発表の仕方や話し方の例を示したり、スピーチを日常的に取り入れたりすることで、自分の考えを分かりやすく伝えることができるようになった。
- ・自分の考えをもってからペアやグループでの共有の時間を設定したことで、主体的に自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりすることができた。
- ・読書学習司書と連携して教材文に関する本を紹介したことで、学習内容の理解をより深めることができた。

【中学年】

- ・家庭学習での漢字ノートや定期的な小テストの実施に加えて、文章を書く際は、新出漢字や既習漢字を積極的に用いるよう指導したことで、漢字の定着を図ることができた。
- ・分からない言葉があるとは辞書を活用し、すすんで調べる児童が増えた。
- ・物語文では、叙述を基に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて考えることで、具体的に想像して読む力を伸ばすことができた。
- ・物語文の学習では、自分の考えをもつ→グループ交流→全体交流→振り返りの流れを毎時間行うことで、自分の意見を明確にし、友だちの意見を聞いて考え方を広げ、授業終わりの活動を通して振り返れるようにしたことで、自分の意見がもてるようになった。
- ・物語文の学習では、児童の初発の感想から、単元計画を作ることで、児童がすすんで学習することができた。
- ・交流では、自分の考えをもつ時間をとってから、ペアやトリオ、グループで話し合い、全体で共有したことで、自分の考えを伝えられる児童が増えた。
- ・交流活動を繰り返し行ったり、話型を指導したりすることで、友達の意見との共通点や相違点に気づき、友達の考えをもっと知りたいと意欲的に活動に取り組む姿が見られた。
- ・「はじめ・中・終わり」の構成を考えて3つ以上の段落で構成した文章、調べたことをまとめた報告分を書くことができるようになってきた。また、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しよう意識して文章を書けるようになった。
- ・書き出しの工夫をすることや自分の考えや気持ちを伝える言葉を選んで文章を書く学習を通して、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しよう意識して文章を書こうとする姿が見られるようになってきた。
- ・家庭学習や授業中で音読活動を積極的に取り入れた。特に、物語文の学習で音読方法を工夫したことで、登場人物の心情変化に気付けるようになった。

【高学年】

- ・単元の始めに一人一人がもった感想を基に学習問題を立てることで、主体的に課題に取り組むことができた。また、内容を理解した上で再度問いをたてて考えることで理解の深まりがみられた。
- ・話型を使わずに内容について児童一人一人が意見をもち、対話することができるようになった。
- ・書くことが苦手な児童も、タブレットを用いることで自分の考えを書く活動に参加しやすくなっていた。

（２）課題

【低学年】

- ・拗音や促音の表記の仕方が身に付いていない児童が見られるので、繰り返し指導する必要がある。
- ・文字の形に気を付けて学習すると丁寧な正しい文字を書くことができるが、普段から丁寧な文字を書けるようにするためには、日ごろから正しく書くことを意識できるような指導の工夫が必要である。
- ・話し合いの時に、自分の意見を言えるようになってきたが、相手の意見を受けて、そこから話をつなげたり広げたりすることに課題がある。

【中学年】

- ・読書が好きな児童が多いが、読む本に偏りが見られるので、幅広く読書をするためにも、ブックトークや児童同士の本の紹介を取り入れるなど工夫が必要である。
- ・文章を読んだり書いたりする際に、自分の体験や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成することができる児童とそうでない児童の差が広がってきている。
- ・教科書や読書、調べ学習等で分からない言葉が出てきた時に、自ら進んで国語辞典を用いて調べ、語彙を獲得させるようにしたい。
- ・改行や段落、句読点など、作文の形式について定着していない児童が多数いるので、個別的に声をかけるだけではなく、原稿用紙の正しい使い方等、引き続き全体指導をしていく必要がある。
- ・対話的な活動を通して友達の考えを知り、自分の考えの広がりや深まりに活かせるように、今後も交流のねらいや目的、様々な交流方法を取り入れたたり、話し合いの仕掛けを作ったりしていくことが必要である。
- ・交流では、自分の考えを伝えられる児童が増えた一方で、対話として成立するかどうかには課題が残った。伝えて終わりにするのではなく、質問をしたり、「自分も同じで」と賛同したりするなど、反応が必要である。話型を示したり、交流の機会を多く取り入れたたりすることで、対話を目指していきたい。

【高学年】

- ・ペア、トリオ、グループなどで活動することの必然性を児童に感じさせてから活動に取り組ませることで、より活動が有意義なものになる。
- ・自分の意見を表現することに苦手意識をもっている児童が多いため、表現の方法（語彙を増やす、朗読するなど）を増やしていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った。

○…目標値と同程度。

△…目標値を下回った。

	令和7年度	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎ (第4学年時)	
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 一項目をのぞき、おおむね目標値、区平均、全国平均と同じくらいか、上回っている。 - 主語と述語の関係についての問題は、目標値に対して下回っている。	- 全体として目標値、区平均を上回っているが、全国平均を少し下回っている。 - 読むこと領域の「説明文の内容を読み取る」項目の「中心となる語や分を見付けて要約している」では、2大きく目標値を上回った。 - 読むこと領域の「物語の内容を読み取る」項目においては目標値を上回った。 - 書くこと領域の「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く」においては、目標値を大きく上回っている。	

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 全体的に目標値、区平均、全国平均を上回っている。（5年） - 言語領域の「ことわざの意味を知り、正しく使っている」においては、目標値を大きく上回っている。（5年） - 一項目をのぞき、おおむね目標値、区平均、全国平均	- 一項目をのぞき、おおむね目標値、区平均、全国平均を上回っている。（5年） - 書くこと領域の「自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書いている」では、目標値を大きく下回っている。（5年） - 読むこと領域の「説明文の内容を読み取る」項目の	

を上回っている。（6年） - 言葉領域「第5学年に配当されている漢字を正しく書いている」では、大きく目標値を上回っている。（6年） - 言葉領域「敬語について理解し、正しく使っている」では、目標値を下回っている。（6年）	「叙述を基に段落相互の関係を捉えている」（5年）では、目標値を下回った。 - 全体的に目標値、区平均、全国平均を上回っている。（6年） - 話すこと・聞くこと領域の「目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合っている。」では、目標値を大きく上回っている。（6年） - 読むこと領域の「登場人物の心情について描写を基に捉えている」では、目標値を大きく上回っている。（6年）	
--	---	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 主語と述語が適切な係り受けの関係になっているかを意識できるように、板書を工夫したり、動作化したりする。（指導計画・授業構成） - 平仮名を正しく書くことを繰り返し指導していく。（指導計画） - 特殊音節の定着を図るために、文中で繰り返し使ったり、間違い探しをして表記方法を意識させたり、動作化して、視覚的に特殊音節を意識させたりする。（指導計画・授業構成） - 文章のまとまりを意識しての段落作り、鍵括弧の使い方や行の変え方を身に付けられるよう、文章を書かせるたびに確認を繰り返したりする。（指導計画・授業構成） - 文の中で漢字を使うことや、促音、拗音、長音の書き表し方を確実に習得する	- 自分の考えを友達に伝えられるようになるために、自分の考えをまとめる時間を確保し、発表の仕方や話し方の例を示す。（授業構成） - スピークでは、話したい内容、聞きたい内容になるように課題を工夫する。（指導計画） - あのねノートを継続し、書くことへの抵抗を減らすとともに、題材のヒントを定期的に示すことで、生活の中から話題を見つけられるようにする。（指導計画） - 授業の中での交流活動が考えの形成につながるよう、対話の目的や方法を明確にしてから取り組ませるようにする。（指導計画・授業構成）	- 単元の学習計画や一単位時間の流れ、その時間のめあてを児童にも示し掲示することで、見通しをもって学習できるようにする。（指導計画） - 単元や授業の終末に振り返りの時間を設け、児童自身がその時間に何を学び、どんな力が高まったのか、次に何を学ぶのか振り返（授業構成） - 読書に親しみ、意欲を高める読書学習司書と連携して、教材文に関する本を紹介する。（指導計画） - ノートの取り方やワークシートのまとめ方を工夫し、学習の積み重ねや既習事項を振り返ることができるようにする。（学習計画・授業構成）

ために、視写や聴写に取り組ませたり、書いた文章を推敲させたりし、表記方法を意識させる。（指導計画・授業構成） ・漢字を学習するときに、字形のポイント、書き順、使い方なども合わせて指導し、正しい書き方や使い方を身に付けられるようにする。（指導計画） ・漢字小テストを定期的に行ってファイルをしていき、間違い直しや練習、苦手な漢字の振り返りをできるようにすることで、学習した漢字を確実に覚えられるようにする。（授業構成） ・タブレットのまなびポケットを活用し、ベーシックドリルで文字の書き表し方の習熟を図る。（指導計画）		
---	--	--

（２）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の理解が明確になるように指導する。（指導計画・授業構成） ・家庭学習や小テスト、ノート指導を通して、新出漢字や既習の漢字が身に付くようにする。（指導計画） ・縦書きや横書き、句読点のつけ方、平仮名や片仮名など、文字や文章を正確に書けるよう指導する。（指導計画・授業構成） ・国語辞典を活用し、語彙力を高める。（指導計画、授業構成）	・家庭学習の音読を通して、文章を正確に読んだり、内容を把握したりできるようにする。（指導計画） ・文章を書く際にはウェビングを活用して、自分の経験などを整理できるよう指導する。（指導計画、授業構成） ・段落を付け、「はじめ・中・終わり」の構成で文章を書くことができるよう指導する。（指導計画・授業構成） ・司会や記録などの役割を決め、目的に合った話し合いができるよう指導する。（指導計画・授業構成） ・説明文では、「はじめ」、「中」、「終わり」の構造や、問いと答えの関係、段落相互の関係に着目させる。筆者の意見などを叙述	・児童の「やりたい」を引き出すために、一人一人の思いや「問い」を尊重する。（指導計画） ・みんなで考え、学びを深めていくために、学習の進め方を確かめながら授業を行う。（指導計画・授業構成） ・幅広く読書に親しめるよう、司書と連携して、教材文に関する本を紹介する。（指導計画） ・単元の学習課題を児童とともに設定し掲示することで、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫する。（指導計画） ・主体的に授業へ参加する意識を高めるために、自分で考える時間と、ペアで考えを共有する時間、全体に共有する時間を設け、自分の考えを表現する機会を増や

	をもとに読み取ったり考えたりする活動を継続していく。(授業構成) ・物語文では、叙述を基に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読む力を伸ばしていく学習活動を継続して行う。(指導計画、授業構成) ・書く活動では、自分の書いた文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりし、文章を推敲する力を高めていく。(授業構成)	していく。(授業構成) ・教科書や新出漢字、読書、調べ学習等で分からない言葉が出てきた時には積極的に国語辞典を用いて調べ、言語活動の充実や語彙力を高められるようにする。(学習習慣) ・読書に親しみ、意欲を高める読書学習司書と連携して、教材文に関する本を紹介する。(指導計画)
--	---	---

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・敬語やことわざの学習の際には、例文づくりや問題作りをして、言葉を正しく使えるようにする。(授業構成) ・新出漢字を定着させるために、家庭学習での漢字ノートや定期的な小テストを実施していく。(指導計画) ・修飾語や指示する語が指している語句や役割などを確認する活動を、精査、解釈の学習の中で繰り返し指導することで、言葉を正しく使えるようにする。(指導計画・授業構成)	・自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書くことができるように、文章構成を把握したり、各段落の関係などを押さえたりする学習活動を取り入れる。(指導計画・授業構成) ・内容の中心となる語や文を見付けられるように、キーワードやキーセンテンス、文章構成に注目させ、ワークシート等の活用やノート指導を充実させて要約ができるようにする。(授業構成) ・相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にして文章を書くことができるように、文章構成を考えたり、主張や理由、根拠が明確になっているかを確認めたりする活動を取り入れる。(指導計画・授業構成)	・単元の始めに一人一人がもった感想を基に学習問題を立てることで、主体的に課題に取り組むことができるようにする。(授業計画) ・見通しをもって学習に取り組めるように、単元の進め方や毎時間の学習の流れを掲示していく。また、既習の学習を活用したりつなげたりして課題に取り組めるよう指導計画を立てる。(授業計画・授業構成) ・ペアやトリオ、グループでの共有の時間では、話し合いたいという意欲を高め、自分の考えを明確にもてるような発問、学習課題の工夫をする。(指導計画) ・読書の幅を広げ、関心を引き、意欲を高めるために、読書学習司書が教材文に関する本を紹介する。(授業計画・授業構成)